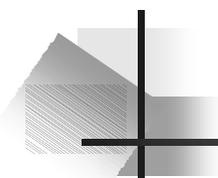


核燃料サイクルの基本シナリオの 評価作業について

平成16年7月29日



評価作業

以下に示す評価の視点について、それぞれ評価を行った上で、総合的評価を行うことが求められる。

安全の確保

資源節約性及び供給安定性（エネルギーセキュリティ）

環境適合性

経済性（次頁に必要と考えられる作業等を示す）

核不拡散性

技術的成立性

社会的成立性（社会受容性）

選択肢の確保（柔軟性）

政策変更に伴う課題

海外の動向

経済性評価のために必要と考えられる作業

シナリオを構成することになる要素のうち、

- 再処理、高レベル放射性廃棄物処分、使用済燃料中間貯蔵等については、総合資源エネルギー調査会電気事業分科会コスト等検討小委員会において電気事業者から提出されたコスト算定データが存在。

(但し、シナリオによって施設規模に違いがある)

- 使用済燃料直接処分は、国内の状況を勘案した技術的に信頼できるコスト算定データがなく、算定作業が必要ではないか。

ある時点までのコスト積上げ額では相互の比較が困難であり、各シナリオの比較は発電単価で行うことが適当ではないか。そのため、各シナリオの発電単価算定を行うべきではないか。

その際、以下のような事項についてどのように取扱うか。

- 再処理を行わないシナリオ（全量直接処分）においては政策変更に伴う費用が発生するのではないか

ex. 六ヶ所再処理工場への既投資額の回収及び解体撤去費用 等

- 政策決定を後日行うというシナリオにおいては、全コストを算定することが不可能となるが、これをどのように考えるか
- 定量的評価を行うことが困難な事項についてどのように扱うべきか